

東北海区沿岸水温予報(2004年)

海域	経過 (4-6月)	現況(7月上旬~ 7月下旬)	見通し (9-11月)	見通しの背景	特異現象 (漁海況)
三陸北部 (青森県太平洋沿岸; 青森水研発表)	6月 津軽暖流域(尻屋線)の最高水温は、表面がやや高め、50m層及び100m層ははなはだ高め、水塊深度が平年並み、津軽暖流の張り出し位置は、平年並み。	7月下旬 津軽暖流域(尻屋線)の最高水温は、表面、50m層、100m層ともはなはだ高め、水塊深度がはなはだ深め、津軽暖流の張り出し位置がかなり西偏 7月 沿岸定置水温は、やや高め~かなり高め	津軽暖流域の水温は、やや高め~かなり高め 津軽暖流の東方への張り出しは、平年並み~やや東偏	6月の対馬暖流の勢力がやや強め、7月の津軽暖流(尻屋線)の各層水が高めとなっており、水塊深度も深めとなった。	
三陸中部 (岩手県沿岸; 岩手水研発表)	4月 表面:沿岸で平年並~やや高め、沖合で平年並~やや低め 100m:沿岸で平年並~やや高め、沖合でやや低め 5月 表面:やや低め~やや高め 100m:沿岸で平年並 沖合で平年並~やや低め 6月 表面:沿岸で平年並 沖合で平年並~やや低め 100m:沿岸で平年並~やや高め、沖合で平年並~低め	表面:平年並~やや低め 100m:沿岸で平年並 沖合でやや高め~低め	沿岸は平年並 沖合は平年並~やや低めで推移する。	津軽暖流の勢力が現状のまま推移すると予想される。沖合の100m深では3以下の水帯が分布しており、この冷水の影響が残ると考えられる。	6月、7月のカツオ一本釣りによるカツオの水揚げが低調であった。
三陸南部 (宮城県沿岸; 宮城水研発表)	3月まで親潮系冷水の波及が強勢であったが、4月には弱まり、概ね平年並~やや高めとなった。5月に入ると再び親潮系冷水の勢力が強まり、表面、100m深とも平年並~やや低めとなった。6月にはさらに親潮系冷水の勢力が強まり、沖合海域を中心に平年より低め~極めて低めとなった。	7月上旬の海況は、表面では北部沖合海域で平年より低め~極めて低めとなったが、他の海域では概ね平年並となった。これに対して100m深では、沿岸海域では概ね平年並であったものの、他の海域で平年より低め~極めて低めとなった。7月下旬現在、南部沖合海域の100m深には、依然として親潮系冷水(場所によっては2~3台)が分布している。	北部沖合海域では平年並~やや低めで推移し、南部沖合海域では平年並~やや高めで推移する。沿岸海域を中心とする他の海域ではほぼ平年並で推移する。	主成分スコア自己回帰モデル、偏差持続モデル、類似年モデルの併用による予測を実施した。2004年7月の類似年は1983年7月となった。5月以降、親潮系冷水が継続して分布し、今後も継続すると考えられる。	5、6月の沿岸定線調査の稚魚ネットに、クリオネが入網。サケガシラが底曳網に入網。スケウダラ、マダラが昨年比べて好漁。
常磐北部 (福島県沿岸; 福島水試発表)	4月:親潮系冷水の勢力が前月より弱まり、表面では黒潮系暖水の波及が県南を中心とした範囲に見られる。水温は低め基調が続き全体においてやや低めとなっている。5月:本県沖50海里付近に親潮系冷水の波及がみられ、水温は平年よりやや低め~極めて低めと低め基調が継続している。黒潮系暖水の勢力は弱し。6月:親潮系冷水の勢力が強し、水温はやや低め~低めと低め基調が継続している。黒潮系暖水の勢力は弱し。	表層では昇温がみられ水温は平年並み~やや高めとなっているが、親潮系冷水の差込みが本県沖30~40海里付近に見られ、深層ではやや低め~低めと低め基調が継続している。黒潮系暖水の波及はみられない。	8~10月とも沿岸は平年並み、沖合は平年よりやや低めで推移するが、期間後半に向けてやや昇温傾向となる。	親潮系冷水の波及が継続するが、期間後半にかけてやや勢力が減退する。自己回帰モデルによる予測では8~10月はマイナス基調の平年並み~やや低め。	1999年以来の下痢性貝毒が出現した(7月中旬)。
常磐南部 ~鹿島灘 (茨城県沿岸; 茨城水試発表)	4月:親潮第1分枝の勢力が弱まったものの、黒潮は南偏傾向で推移し、鹿島灘での暖水舌の形成がなく、親潮系冷水の影響が残り、やや低い~極めて低いで推移。 5月:親潮第1分枝の南下が強まり、親潮系冷水の分布する海域を中心に平年より低い~極めて低いで推移。 6月:親潮第1分枝が急速に南下し、全景で低い~極めて低いで推移。	5月:親潮系冷水の影響が残り、100m深では、県全域にわたり低い~極めて低いで推移。沿岸部の表面~20m程度のごく表層では、暖水の差込みがみられ、平年並に昇温している。	9月:親潮系冷水の影響が残り表層は平年並~やや低い、中下層はやや低い~極めて低いで推移。 10月:基本的には「低め」基調が続くが、黒潮の流路変動に伴う暖水の波及により、平年並~低いで推移。	親潮系冷水の勢力は強く、7月段階で若手から宮城沖の冷水が順次南下するとすれば、その影響は1~2ヶ月程度持続する。黒潮がA型に移行すると考えられるが、房総半島からの離岸距離は小さく、常磐沿岸は暖水型にはならない。但し流路の変化による暖水の補給が起り、沿岸部表面を中心に消音する。	6月:犬吠200m程度のキンメの遊漁の漁場でマダラが採捕。

各階級の水温平年偏差の範囲

階級区分(出現率)	三陸北部	三陸中部		三陸南部	常磐北部	常磐南部~鹿島灘
		距岸10海里内	距岸10~70海里			
極めて高い(2.5%)	+2.4 ~	+4.0 ~	+6.0 ~	+2.4 ~	+4.0 ~	+4.0 ~
高い(7.5%)	+1.6~+2.3	+2.5~+3.9	4.0~+5.9	+1.6~+2.3	+2.5~+3.9	+2.5~+3.9
やや高い(20%)	+0.7~+1.5	+1.0~+2.4	1.5~+3.9	+0.7~+1.5	+1.0~+2.4	+1.0~+2.4
平年並み(40%)	+0.6~-0.6	+0.9~-0.9	1.4~-1.4	+0.6~-0.6	+0.9~-0.9	+0.9~-0.9
やや低い(20%)	-0.7~-1.5	-1.0~-2.4	1.5~-3.9	-0.7~-1.5	-1.0~-2.4	-1.0~-2.4
低い(7.5%)	-1.6~-2.3	-2.5~-3.9	4.0~-5.9	-1.6~-2.3	-2.5~-3.9	-2.5~-3.9
極めて低い(2.5%)	-2.4 ~	-4.0 ~	-6.0 ~	-2.4 ~	-4.0 ~	-4.0 ~

